

第 10 回 北川流域委員会 議事骨子

平成 22 年 3 月 2 日 (火) 「小浜市働く婦人の家」において第 10 回北川流域委員会が開催されました。

北川水系河川整備計画 (案) 策定に向けて、第 9 回北川流域委員会での意見および住民意見交換会などの住民意見の反映した内容について報告を行いました。

報 告

前回委員会での質問等について、河川管理者より説明がなされました。説明を受けての委員からの発言は以下のとおりです。

委員からの主な発言

北川は扇状地でなく河岸段丘でないか。扇状地性低地ということが理解できない。森林の緑のダムという表現は、特に水源涵養機能があるわけではないのでやめたほうがよい。

砂利採取場の流出抑制の対策は、十分なものなのか疑問を持っている。

毎年、2 月頃に頭首工の土砂を撤去するほど、土砂堆積が多い。

府中頭首工を撤去すると遠敷川の瀬切れが解消されると思う。

山林の減少ではなく、森林の減少の表現が妥当だと思う。森林の減少で保水力が減少している。

晴天以外の天候でも水質測定を行ってほしい。北川は、少しの雨でも濁水になり良い状態の水質だけで判断するのは、非常に変だと思う。

議 事

河川管理者より「北川河川整備計画 (案) 策定に向けて」について説明がなされました。説明を受けての委員からの発言は以下のとおりです。

北川水系河川整備計画 (原案) への主な意見反映

治水の目標 (整備計画による効果をわかりやすく明記)

遠敷川合流点から下流部では、現況流下能力 $1,000\text{m}^3/\text{s}$ 程度から将来目標である $1,800\text{m}^3/\text{s}$ に向けた途中段階として戦後最大となる昭和 28 年 9 月洪水を考慮し、河道で $1,400\text{m}^3/\text{s}$ 程度の流下能力を確保する。

水質の保全 (水質保全するための水利用の把握と調整を明記)

北川の自然豊かで動植物の生息・生育・繁殖環境の保全を図り、河川利用や水利用を促進するため、地域住民との連携を図りながら良好な水質の保全に努めると共に、取水・排水の状況を把握し関係機関との連絡・調整を行い水利用のため、必要な水質の保全に努める。

住民と連携した河川整備の実施 (住民と協働で整備を進める内容を追加)

河川整備の実施にあたっては、地域住民に河川に関する情報提供を、積極的にわかりやすく行うことで問題意識を共有し、意見交換を行うなど連携しながら進めていく。

関係機関との連携 (流域全体で課題を解決する内容を追加)

流域の環境変化や気候変動による洪水流出の変化、湯水時の瀬切れや濁水の長期化問題など、北川水系における諸課題を解決するためには、流域一体となった総合的な視点による対策が必要なことから、流域に関係する機関や事業者とも連

携し、総合的な河川整備を目指す。

委員からの主な発言

許可工作物について、流水に支障があれば施設管理者が改修しなければならないと感じられ北川の改修が進まないのではないかと危惧している。

霞堤は北川の特徴であり、霞堤の役割を強調して表現してほしい。また、コウノトリの餌場として、農業と結びついて霞堤を利用する方法を考えてほしい。

霞堤の効果の解析はどのようにしたのか。ハイドログラフで検討しているのか。

住民との連携や協働とあるが、それが具体的に示されていない。

周知の期間が1ヶ月というのは、非常に短い。今後、住民意見の聴取や協働を行う場合には、その点を考慮して頂きたい。

住民意見交換会では、浸水した地区の方々の意見や発言が多かった。

遠敷川合流点より上流の堆積箇所の掘削を行う記述はあるが、河口部はどうか。

関係機関との連携で「連携」を積極的に実行性のある表現にできないか。例えば、「・・・流域に関係する機関や事業者と連携するとともに、必要に応じて積極的に問題提起を行うなど、総合的な河川整備を目指す。」

北川は流程も短く他の河川と比較して、関係機関が少ないので、全国に先がけて実効のある連携体制をつくり、お互いが納得できるような形で整備を進めてほしい。

湿性植物の移植など、特に危機的なものについて、実行してほしい。

生態工学分野も成長し、国交省で知識とかノウハウが蓄積されていると思う。しかし、学識経験者は高齢化していくので、その技術の伝承ができるように定期的に見直しをやって頂きたい。

北川の洪水の状況を携帯で見ることができありがたい。高齢者はついていけないといった意見もあるが、こういった情報発信の充実を今後ともお願いしたい。

その他

北川流域委員会は第10回をもって終了となり、委員長より、本日の貴重なご意見も反映させて整備計画を策定し、河川管理者が積極的に流域の関係機関と連携するとともに住民と信頼関係を築いて河川整備を進めることが重要であると述べられました。

また、近畿地方整備局藤村広域水管理官より、委員会でたくさんのご意見をいただいた感謝と整備計画策定に向けて抱負を述べられました。